

群馬県と馬の密接な関係
～生活を支える馬～

3年1組 小林望愛

1. 研究動機

群馬県は県名に「馬」とあるように馬と何らかの関わりがあるのではないかと考え、調査したいと思った。県のゆるキャラ「ぐんまちゃん」や群馬県警のマスコット「上州君くん・みやまちゃん」も馬の姿をしている。また、長年人と共存してきた馬はどのように人々に利用されてきたのかについて興味を持ったため。

2. 研究目的

群馬県と馬にはどのような関係があるのかを調査する。また、当時馬はどのように人々扱われていたのかについて調査する。

3. 研究方法

- (1) かみつけの里博物館第20回特別展の展示解説図録を利用する。
- (2) 図書館で東国文化、古代の馬に関する本を借り、調査する。
- (3) 解説図録や図書館で調べきれなかった部分はインターネットで調査する。

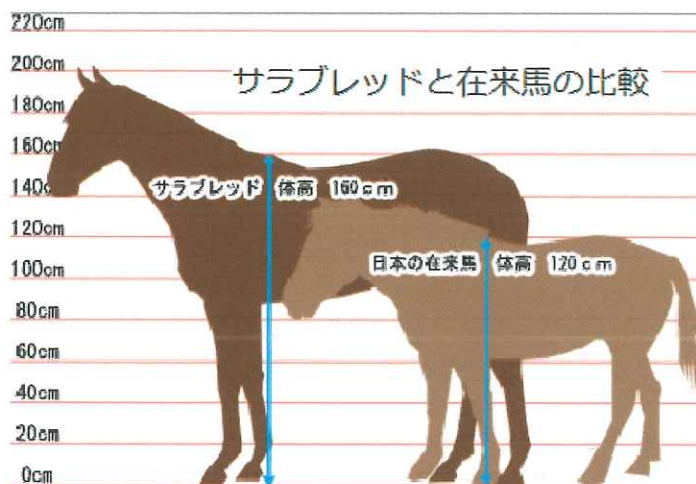
4. 成果

- (1) 古墳時代における馬生産の仕組み

1) 馬の伝来

日本列島で馬が人との生活に関わりを持つようになったのは古墳時代の中頃、5世紀に入ってからのことである。その頃の馬は体高が120cm～130cmほどの小・中型馬で、遺跡から出土した馬骨などから復元できている。当時の馬は胴長で肢が太く使役用に適しており、肢が細長い体高150cm以上の現在の競馬用の馬とは大きく異なる。

「魏志倭人伝」の記述と骨の出土状況から、弥生時代まで馬はいなかったとされる。朝鮮半島が4つの国に分かれていた4世紀後半、日本のヤマト王権は百済と同盟を結び、高句麗と戦うために半島へ出兵した。戦場で日本人は高句麗の騎馬軍団の攻撃力や移動手段としての馬の有用性を目の当たりにして、カルチャーショックを受けたのではないかと推測されている。そこで、倭からの要請とともに百済・伽耶の支援によって、倭の武力強化のために馬と馬の飼育集団が積極的に送り込まれたと考えられる。



2) 馬の用途

馬の用途は軍事・輸送・農耕の3つが主だが、当初は儀礼用を含む軍事が中心だったようだ。首長が死ぬと、その愛馬を殉葬する風習もあったが、後になるとその代わりに埴輪の馬を葬るようになったという。駅馬・伝馬の制度が作られたのは大化の改新以降で、公的通信手段としての馬の利用が制度化された。

3) 牧の経営

『日本書紀』の天智天皇7年(668年)7月条に「多く牧を置き、馬を放した」との記述があり、組織的に馬の飼育が行われていたことを示している。また、文武天皇4年3月条では諸国に対して牛馬を放つことが命じられており、国家的規模での公の牧の設置を示す最初の記録となっている。奈良時代の初め頃には各地に官牧が設けられていた。飼育されていた馬は「官」の字の焼印が押され、帳簿で管理された。

(2) 群馬県と馬の関係

1) 群馬県における馬の立ち位置

5世紀に朝鮮半島から上毛野国に伝わった馬は、軍事・農耕などの手段としてとても貴重だった。そして、財力や軍事力、権威の象徴でもあった。大泉町の古海松塚11号古墳から出土した「馬形埴輪」からは馬のしっぽは切り揃え、ひもでまとめられていたことが分かる。豪華に飾り立てられていた動物は馬だけで、馬は当時の人々にとって特別な存在である。馬がいるだけで農業や戦いで圧倒的に有利だった。そのため、人々の憧れだった馬はおしゃれに飾られていたと考えられている。また、畿内地域と東国を結ぶ内陸交通の手段としても重視されていた。5世紀後半以前は太平洋崖沿いの海路・陸路さらには河川路を介したものが中心で、船が大いに利用された。これに対して5世紀後半以降は内陸路による遠距離交流ルートに重点が移っていく。



このルートは近世の「中山道」に近い。この変化の最大の要因は馬の登場にあったという。当時、内陸の広域交流ルートは馬の存在が不可欠であった。実際、このルート上にあった伊那谷（長野県飯田市周辺）と上毛野地域（特に西毛地域）では 5 世紀後半を前後した時期から盛んに馬匹生産が行われるようになった。

2) 群馬県での馬の生産を示すもの

① 群馬県の牧

「尾張国正税帳」の中に、6 月に上野国に下る父馬 10 匹に秣 25 束を支出したことが記されている。この種馬の向かう上野国には、中央政府から派遣された種馬を使って良馬を繁殖させ飼育する官牧があったとみることができる。『延喜式』左右馬寮の御牧条に挙げられているものでは上野国には 9 牧があったとされる。上野国、甲斐国、武蔵国、信濃国の 4 カ国で合わせて 32 牧が設置されていた。各国で毎年選ばれ、調教された馬が中央政府に貢上された。群馬県は 50 匹の御馬の貢上が定められていた。その際、貢上に適さない馬は駅馬や伝馬にされた。責任者の牧監は国司に準ずる扱いを受けていたという。また、上野国の 9 牧のうち、半数を超える 5 牧が榛名山の周辺だと推定されている。榛名山は、6 世紀頃の爆発で噴出した軽石が厚く堆積し、それによって発生した土石流が平坦な土地を作ったため、馬の放牧に適した地形と植生であったと考えられている。

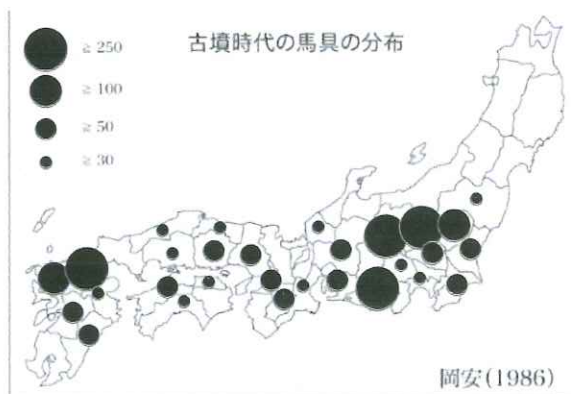
このことから群馬県（上野国）は中央政府に信頼される国の 1 つとして馬の生産を任されていたと考えられる。また、牧監が国司に準ずる扱いを受けたことから、馬が厳密な管理を受ける必要があったと考えられる。

② 副葬品の馬具

群馬県古墳からは実に多くの馬具が出土している。下図から分かるように古墳時代の馬具の分布で群馬県は全国トップレベルの量を出土していることが分かる。5 世紀頃、馬匹生産が盛んに行われるようになった時期の古墳には馬具の副葬品が増えているという。



西大山遺跡 轡



③ 馬形埴輪

群馬県で出土した馬型埴輪は 350 例以上といわれ、全国的に見ても非常に豊富な数量である。また、県内で見つかった動物埴輪のうち 90%を馬の埴輪が占めている。



馬形埴輪 左 渋川市出土 右 伊勢崎市出土

④ 白井・吹屋遺跡群

平成 2 年、白井・吹屋遺跡群では無数の馬の蹄跡が見つかった。発見された蹄跡がそれぞれバラバラの方向を向いていることから放牧のような状態にあったことが分かった。しかも、子馬と思われる小さな蹄跡も混じっており、繁殖も行われていたと予想される。これらのことからこの地域で馬の生産が行われていたことが判明した。その後の調査で蹄跡が遺跡群の全域に分布していることが分かったため、放牧地の推定範囲は約 6 km²にも及ぶこととなった。かなり生産規模が大きかったと考えられる。



吹屋犬子塚古墳遺跡V区 蹄跡



白井北中道遺跡6区 白線でマークしたものが蹄跡

⑤ 黒井峯遺跡

黒井峯遺跡では家畜小屋跡が発掘された。何を飼っていたのかはまだはっきりとは分かっていないが、遺跡周辺の軽石下の地表面から馬の蹄跡がたくさん見つかっている。

⑥ 金井東裏遺跡

金井東裏遺跡では屋敷地の外に蹄跡が多数残り、さらに 5 世紀後半とみられる層からは馬の歯が 3 点出土している。また、鉄の地板に金属板をかぶせて釘で留めた「剣菱型杏葉」と呼ばれる馬の飾り具も見つかった。これらから馬を飼育していたのは間違いないという。

⑦ 馬の骨の発見

平成 28 年 11 月、金井下新田遺跡から子馬の骨や古代人の歯が発見された。これは、遺跡周辺で馬の生産や飼育が行われていたことを証明する大発見となる。



金井下新田遺跡 馬の頭骨など

(3) 群馬県で馬の生産が盛んになった理由

1) 群馬県の風土

群馬県には馬に合った火山性の黒い土が豊富にあった。また、階段状の地形をした河岸段丘が自然の柵としての役割を果たし、馬が逃げられないため管理しやすかった。

2) ヤマト王権からの信頼

群馬県は豊富な資源や朝鮮半島から伝わった最先端の文化・技術を持ち、東国文化の中心地として繁栄していた。そして、ヤマト王権は東国と良好な関係を保ちたいと考えていたため、東国をリードする上毛野国を重視していた。当時、ヤマト王権と上毛野国は密接につながっており、太田市の天神山古墳には、ヤマト王権の大王の古墳と同じ設計図が使用されていると推定されている。また、

水田稲作で豊かになり、ヤマト王権に認められた。そのため、飼育を任せられ御馬の貢上などを任せられたのではないかと考えられる。

5. 感想

群馬県は馬の産地としてヤマト王権からの任命を受けるほど、馬と深い関わりを持つことが分かった。そして当時の人々にとって馬は貴重な生き物で、大切にされていたことに安心した。また、群馬県で大規模な馬生産が行われていたことは様々な遺跡や出土品が明確な根拠となって証明していた。金井下新田遺跡から、子馬などの骨が見つかったのは比較的最近である。今後さらに群馬県と馬の関わりを示すものが発見されることを期待したい。群馬県が東国の中で力を持つためには不可欠だった馬を今後も大切に守っていきたいと思う。そして、群馬県が誇る馬について他県の人にもっと知ってもらいたいと思う。

また、実際に金井東裏遺跡や黒井峯遺跡に行くことができてよかった。古墳時代に人々が暮らしていたことや馬が大切に飼われていたことを考えると感慨深いものがあった。黒井峯遺跡ではVRで馬がいた様子を見ることができ、馬生産についての実感がわいた。





思っていたよりも広範囲に遺跡が広がっていた。

6. 参考文献

かみつけの里博物館「馬と共に生きる～馬具から見た古墳時代～」

森浩一編「日本古代文化の探究 馬」

群馬県「ぐんま東国文化ものがたり」

渋川市教育委員会「日本のポンペイ史跡黒井峯遺跡」

「金井東裏遺跡と渋川市の古墳時代」 [iseki002.pdf \(gunmaibun.org\)](#)

群馬県「もっと埴輪や古墳について学んでみよう！」 [群馬県 - もっと埴輪 \(はにわ\) や古墳について学んでみよう! \(pref.gunma.jp\)](#)

群馬県「特集 東国文化の中心地『古墳大国ぐんま』に迫る 1」 [群馬県 - 特集 東国文化の中心地「古墳大国ぐんま」に迫る 1 \(pref.gunma.jp\)](#)

群馬県「特集 東国文化の中心地『古墳大国ぐんま』に迫る 2」 [群馬県 - 特集 東国文化の中心地「古墳大国ぐんま」に迫る 2 \(pref.gunma.jp\)](#)

「あなたの知らないはにわの世界『馬型埴輪』」 [あなたの知らないはにわの世界「馬形埴輪」 | 子ども向け | 文化振興課 | 群馬県 - YouTube](#)

「日本における馬の歴史 1」 [馬文化ひだか：馬を知る：馬と人間の歴史：馬の伝来から鎌倉時代まで - 日高振興局地域創生部地域政策課 \(hokkaido.lg.jp\)](#)

「『馬体の輪郭』発見 古墳時代、群馬の遺跡」 [「馬体の輪郭」発見 古墳時代、群馬の遺跡 - 読んで見フォト - 産経フォト \(sankei.com\)](#)

『甲を着た武人』が治めた 古墳時代のハイテク地域 [『甲を着た武人』が治めた
古墳時代のハイテク地域 | NIKKEI STYLE](#)